

令和6年11月8日

第1回総合教育会議記録

石巻市教育委員会

令和6年度第1回石巻市総合教育会議記録

◇開会年月日 令和6年11月8日（金曜日）

午前10時06分開会

午前10時58分閉会

◇開催の場所 本庁舎4階 庁議室

◇出席委員等 6名

市	長	齋藤正美	教	育	長	宍戸健悦
委	員	今泉良正	委	員	梶谷美智子	
委	員	大和千恵	委	員	依田晴美	

◇欠席委員 なし

◇説明のため出席した者の職氏名

（市長部局）

総務部長	阿部金也	総務部次長	阿部 聡
総務課長	千葉 毅	総務課長補佐	高橋健之
総務課主幹 （併任）	成澤和彦	総務課主幹 （併任）	平塚悦子

（教育委員会事務局）

事務局長	富澤成久	事務局次長	今野良司
事務局次長 （教育・文化 芸術振興担当）	工藤聖子	学力向上推進監	仲上浩一
教育総務課長	赤坂将人	学校教育課長	福田光一
学校再編 推進室長	星 憲	学校安全 推進課長	佐々木 伸
学校管理課長	土田順平	生涯学習課長	高橋秀和
石巻中央 公民館長	高橋伸明	図書館長	瀬川信行

◇協議・調整事項

- (1) 学力向上と基本的な生活習慣の育成について
- (2) その他

午前 10時06分開会

○千葉毅総務課長 ただいまから令和6年度第1回石巻市総合教育会議を開催いたします。

本日の会議の司会は、総務部総務課長の千葉が担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

開催に先立ち、報道機関の方及び一般傍聴の方々より写真撮影、録画、録音の申出がございます。本件につきましては、石巻市総合教育会議運営要綱第8条第5号ただし書の規定により、議長が会議に諮り、出席者の了承を得るものとされておりますので、議長であります齋藤市長からお諮り頂きたいと存じます。

○齋藤正美市長 それでは、皆様にお諮りいたします。

報道機関の方より写真撮影、録画、録音の申出がありましたが、石巻市総合教育会議運営要綱第8条第5号ただし書の規定により、いずれも許可することとしてよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○齋藤正美市長 それでは、報道機関及び一般傍聴の皆様におかれましては写真撮影、録画、録音をいずれも許可することといたします。

○千葉毅総務課長 傍聴人の皆様におかれましては、会議の妨げとなるような行為がないよう御協力のほど、お願いいたします。

市長挨拶

○千葉毅総務課長 それでは、開会に当たりまして、初めに、齋藤市長から挨拶をお願い申し上げます。

○齋藤正美市長 皆さん、おはようございます。定刻が過ぎまして、誠に申し訳ございませんでした。

本日は、大変お忙しいところ御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

令和6年度石巻総合教育会議を開催するに当たりまして、一言御挨拶をさせていただきます。本会議は、本市の教育の現状や課題に対する認識を共有し、重点的に講ずべき施策等について協議調整を行うことにより、今後の施策の推進につなげる目的で開催するものでございます。

各事業の取組、方針等について、委員の皆様と協議を重ねながら、教育に関する共通認識を深めていきたいと考えております。

さて、本日の会議では、「学力向上と基本的な生活習慣の育成について」を議題とさせてい

ただきました。

学力向上は教育における最も重要なテーマであり、本市では令和4年度に石巻市学力向上プランを策定し、本年度は学力向上推進監を創設するなど、その改善に向け取り組んでいるところでございます。このプランでは、「学習意欲の向上」、「授業改善」、「基本的な生活習慣の確立」の三つの視点を掲げており、「学習意欲の向上」と「授業改善」については、取組の成果として、全国学力学習状況調査開始以降、初めて小学校の国語と算数はともに県平均を上回る結果となっております。今後はこの成果を分析し、他の学級、学年、学校において活用していくことが重要と考えております。

なお、「基本的な生活習慣の確立」については、「早寝早起き朝ごはん」の定着率は低く、「テレビゲームをする時間が長く、家庭学習の時間が短い」といった課題が依然として改善されておきませんので、早期の改善に向けてより一層、力を入れて取り組んでまいります。

本日は、教育委員会及び学校における取組について報告を頂きながら、委員の皆様からの忌憚のない御意見を頂戴し、今後の施策に取り入れ、教育行政をさらによい方向へと推進してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

過日、県の教育委員会の副教育長とお会いした時に、副教育長のほうから、「石巻は学力が上がっていますね」というお話がありました。実は、学力向上推進監を創設して、仲上先生にやっていただいておりますとお話したところ、「聞いていましたけど、やっぱり成果が出ていますね」というお話をいただきました。仲上先生の御尽力、そして、各学校の教職員の皆さんの思いが結集しての結果となっております。

これで終わりじゃなくて、ここからですから、しっかりと取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

(1) 学力向上と基本的な生活習慣の育成について

○千葉毅総務課長 続きまして、次第の3、協議・調整事項に入らせていただきます。

ここからの会議の進行につきましては、議長であります齋藤市長にお願いいたします。

○齋藤正美市長 それでは、会議の主宰者である私の方で議長を務めさせていただきたいと思いますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

では、(1)として、「学力向上と基本的な生活習慣の育成について」を議題といたします。

学校教育課から説明をお願いいたします。

○福田光一学校教育課長 学校教育課の福田と申します。よろしくお願いいたします。

では、学力向上の取組について説明させていただきます。資料ですが、事前にお渡しした資料はデータが中心になっていますので、本日お渡ししたイラストが入っている資料を中心にお話しさせていただきます。

まず初めに、令和4年度から本市では学力向上プランに取り組んでおり、今年で3年目を迎えました。3年ごとに3期で計画を進めていますが、1期最後の今年度の数値目標は、国語、算数、数学ともに平均正答率が県平均を超えることとしておりました。先ほど市長のお話にもありましたが、令和6年度の結果として、小学校が国語、算数ともに県平均をワンポイントではありますが超えています。中学校については、どちらもマイナス2ポイントですが、昨年度から1ポイント、2ポイントと差を縮めていますので、成果が出てきていると感じています。

2ページ目を御覧頂きたいと思います。全国平均を超えていませんが、学校全ての平均を出して市の平均を出していますので、中には全国値を超えている学校もあります。それをグラフにしてみました。上が小学校です。青色が令和4年度、オレンジ色が令和5年度、灰色が令和6年度となっていますが、年々、全国平均値を超える学校が増えているのがわかります。徐々に成果が出ていると思います。中学校に関しては、令和4年度は全国平均を超える学校はありませんが、令和6年度には29%ほどが超えていますので、徐々に点数に成果が出ていると思います。一方で、それでも平均が上がらないのはやはり、学校間の差が開きつつある課題も見えてきました。今後も、改善に取り組んでまいりたいと思います。

3ページ目をお開きください。先ほどの学力向上プランの三つの柱の一つである「学習意欲の向上」についての部分です。子どもたちのアンケート結果から、学校で先生はいいところを見つけてくれる、難しい問題にもあきらめないで取り組む、国語が好き、国語は将来役に立つ、それから、数学の授業はよく分かるなどの肯定的な評価を得ています。一方で、小学校で算数に対する気持ちが低い、要は算数が好きかという質問について、好きという意見が余り多くなくて、内容もちょっと分からないというような子が6年生ですけれども多かったように思います。でも、以前よりも点数が取れてきているので、この辺の分析をしていかなければいけないと思っています。

4ページ目をお開きください。二つ目の柱の「授業改善」の取組ですが、以前は教師が一方的に教えるような授業から、子どもたちが自ら考えるような授業スタイルに今、変えているところです。子どもたちにもそれが浸透してきて、話合いをすると考えが深まるとか、あるいは課題に自分で取り組むようになったという意見が多く聞かれました。それから、導入したタブレットを使つての授業、これが多くの学校で行われるようになり、しかも子どもたちはICT

を使うとより友達とも協力ができるようになったという捉え方もしています。これも小学生ですが、まだその有効的な活用が実感できていないという、データも出ておりまして、タブレットを自分で使いこなすというところまではまだ行っていないと考えております。

5 ページ目をお開きください。これが先ほど市長のお話にもありましたが、「基本的な生活習慣の確立」が伸び悩んでいるところです。朝ごはんを食べる、それから決まった時間に寝る、ゲームや通信機を使う時間が長いなどのところで、やはり全国値を下回っている結果になっています。悪循環だと思います。夜遅くまでゲームをして、なかなか寝ずに朝ごはんを食べないまま学校に来るというような悪循環に陥っているのかなというところです。この辺に関しては、ずっと課題として取り組んできたところであります。学力向上プランを始めて年に2回、保護者を交えて教育相談や保護者向けのプリントなどを配って啓発をしておりますが、なかなか学校だけの力では伸びてこないと苦慮しているところです。

それで6 ページ目ですが、では今後、この課題にどういうふうに取り組むかというところを考えたときに、タブレットが導入されて石巻市の場合、LTEというモバイル通信でどこでも通信ができるという利点、それからタブレットドリルやY o m o k k a ! という小学生には電子図書も入れてもらっていますので、教材が十分に活用できるアプリを使って何とか、家庭を巻き込んだ取組ができないかなと考えています。例えば、Y o m o k k a ! を使って、おうちの人も一緒にY o m o k k a ! を読んでもらうとか、それから体力の向上の部分でも、スマートコーチというアプリを入れる計画をしておりますので、それを使って家族とともに運動してもらうとか、今まで宿題をプリントで配り次の日にプリント提出を、タブレットでやったことをその日のうちに送るとか、学校でタブレットを介して子どもたち自身がコントロールできる力を身につけさせたいと思っています。あるいは、子どもたちが自分の生活行動について記録を付けたり、いわゆる時間をコントロールできるようになるための具体的な方法を考えていこうと思っています。今年からコミュニティ・スクールも全校で始まりましたので、その地域の力、コミュニティ・スクールの機能を生かして子どもたち自身に学校から基本的な生活習慣、時間をコントロールする力を身につけさせたいなと思っています。本日、いろんな御意見やアイデアを頂けたらと思います。

よろしく願いいたします。

○齋藤正美市長　ありがとうございます。

ただいまの説明について、御意見、感想、質問などありましたらお伺いしたいと思います。いかがですか。

本当に改めて、仲上先生はじめ皆さんの御労苦に敬意を表します。やはり、中学校でなかなか学力向上が難しいのは、やはり基本的な学力というか、それをしっかりと小学校で身につけること。それが、中学校の学力向上にもつながるということでございますので、このことについても今後しっかり取り組んで頂きたいし、そうしていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

そのほか教育委員の皆さん、ご意見をどうぞ。梶谷委員。

○梶谷美智子委員 ただいま学校教育課長さんの資料をもとにした説明、そして、開会の挨拶の中での市長さんのお話からもこの3年間の取組が本当に推進されて、具体的に数値として上がってきていると、取組が推進されているのだなとうれしく思います。

それで、教えていただきたい点がありますが、説明資料の2ページ目の棒グラフで、過去3年間の全国平均以上の学校数割合ですごく伸びてきているのですが、説明の中に、学校間の差があるというお話がありました。それぞれの学校で本当に一生懸命取り組んで頂いていると思いますが、この差というのはどういうところから生じてきているのかというところを教育委員会で分析はなさっていると思うのですが、そこが課題かなと思うのです。その差というのが、例えば、授業改善が進んでいない、具体的にタブレットの効果ということで、先ほどお話ありましたがその活用の仕方というところに課題がある。もちろん、学力の土台となる基本的な生活習慣、そこが一番大きいと思うのですが、その指導の部分での課題がある。また、タブレット等の活用ありきではなくて、やはり効果的に授業の中で使っていくということが大事だと思いますが、指導する側のタブレット活用に関する教師の意識、教師ももしかすると課題を持っているかもしれないし、その辺のところ、この学校間の差というのはどういうところから生じていると、教育委員会として捉えているのでしょうか。

○齋藤正美市長 学校教育課長。

○福田光一学校教育課長 はい、学校間の差はやはり地域の差も大きいと思います。というのは、あまり学力の点数が伸びてない学校は、ずっとこれまでと同じような位置にいますので、その地域の中で、いわゆるペーパーテストに関してあまり興味がない、それほど重要視してないというような雰囲気があるところは、なかなか点数には結びつかないかと思います。それから、先ほど梶谷委員さんからお話がありました授業改善についても、教師の年齢構成だったり、初任が多い学校はなかなか改善が進まなかったり、あるいは逆にベテランの教師が多かったりすると今までのやり方から抜け出せなかったりということもあるかと思います。

今年は、先ほど市長のお話にありました学力向上推進監が各学校を回っており、大分、昨年度

よりもその授業改善が加速したような感じを受けています。というのは、市内で非常に進んでいる学校は鹿又小学校なのですが、鹿又小学校を見学する学校が増えている、鹿又小学校が授業公開をしたときに、多くの市内の先生たちもそこに参加していますので、自分のスタイルについて、今後の課題を持って取り組む先生方が大分多くなったかという印象は受けています。

○梶谷美智子委員 ありがとうございます。

まず、指導する側の教師の意識というか、課題意識を持って授業改善に取り組むということが大事だと思います。

それから、もう一点ですが、そのタブレットの活用についての教師側の意識というのはどのように捉えていらっしゃるでしょうか。

○齋藤正美市長 学校教育課長。

○福田光一学校教育課長 タブレットの活用については、どの学校でも授業中はタブレットを使うようになってきました。使い方はこれからの研修の課題かなと思うのですが、この使い方については、いろんなアイデアを持った若手、中堅層の先生方がいろんなアイデアを次々出して、効果的な使い方をしていきますので、そこにベテランがどういうふう to 今までの技量を乗せていくかというのが、この効果をこれから発揮するところかなと考えています。

我々の課題としても、使うことが出来るようになってきたので、今度はそれをいかに有効に使うかというのが、先ほどのアンケート結果にもありました小学6年生がICTについて、有効活用ができていないという課題にも結びつくのかなと思いますので、いわゆる検索機能だけではない、自分の生活をしっかりコントロールできるような使い方もこれから必要なのかなと思います。

○齋藤正美市長 今泉委員、どうぞ。

○今泉良正委員 結果を見てですね、小学校については県平均を上回ったということ、大変素晴らしいと思いました。中学校はまだですが、小学校で上がるということは今後、中学校にもつながっていくのではないかなと思います。

タブレットの活用については、これからいかに有効的に活用していくか、いろんな人との話し合いをまとめたり表現したり、これが非常に重要になってくると思います。その中で、全国の学力学習状況調査の結果を見ても、授業でICTを有効活用しているほど、主体的対話的で深い学びが出来るという結果も出ていますので、それで関連するのですが、ただこれには教師のスキルがある程度必要かなと思います。どうしてもやっぱり若手にはかなわない。ただし、若手よりも、ベテランのほうはいろんな教育的な技術を持っている。ここをうまく融合させてい

くということが、市としてそういう研修会もやっていくことが必要だと思っています。

それから、もう一つ、石巻市の課題はゲームの時間が多いとか、そういうことだと思います。先ほど学校教育課長さんの話にもありましたが、これは学校以外の家庭の部分が非常に大きいので、この解決方法としては、今年から全ての学校にコミュニティ・スクールを導入しました。まさに学校運営協議会でいろいろこの課題について、各校ごとに検討していくことが必要ではないかと思っています。コミュニティ・スクールになって学校運営協議会で何をしたらいいのっていう話も聞かれます。学校運営協議会で各学校のこういう課題があるのだと、全国平均よりゲームをやっている時間が長いです。みんなで考えましよう地域を巻き込んで、いろんな手だてを考えて、これをやっていかなければならないのかなと思いますし、学校で、もう少しそういう意識を、学校運営協議会をうまく活用するという意識を持っていく必要があるのかなと思います。

いずれにせよ、石巻市は非常に学力が上がっていますので、これはいい傾向だなと、どんどんいいことは広めてモチベーションを挙げて取り組んでいければと思います。決して学力学習状況調査の点数の結果が学力とは思いませんが、ただこれも非常に重要なことだと思います。

○齋藤正美市長 ありがとうございます。貴重な御意見でした。

ほかにございませんか。依田委員どうぞ。

○依田晴美委員 タブレット端末について、私、仕事でいろんな学校の子どもたちと接することがあるのですが、学校間で、家庭学習でタブレット端末を使うというのが、何か統一されていないようで、持ち帰ることが出来ないですという御家庭が結構あります。ぜひ、ゲーム好きな子たちのほうが、タブレット端末を上手に使って学習に取り組んでいるので、これを上手に使うことが学力を上げていく重要なポイントではないかと、学校間の格差がないように進めていただきたいと思います。

○齋藤正美市長 はい、ありがとうございます。そのとおりだと思います。

使用方法のマニュアルとか学校で出しているのでしょうか。

（「はい」との声あり）

家庭に持ち帰るということは言っているでしょう。それが徹底してないならもう1回、確認して、それを徹底させるようにしてください。

それから、よく寝る前にスマホやテレビゲームとかが発する光ですが、これが睡眠妨害として、非常に体に悪いのだそうです。これについて、一般の小中学生はわかっているのかなと思います、その辺をもっと徹底して、寝る前のスマホ、それからテレビゲームは、本当に体を悪くし

ますよということ、しっかりと認識してもらえよう徹底してほしいと思いますのでよろしく
お願いします。ほかにございませんか。

大和委員どうぞ。

○大和千恵委員 学力学習状況調査の点数が向上したということは、喜ばしいことですが、点数を上げることが目標ではなく、子どもたちが学ぶことが大切だということとか、学ぶことが面白い、新しいことを覚えることが面白いだというのが、子どもたちの中に生まれてくると、もっと点数にもそれが今後あらわれてくるのかなと思います。もちろん点数が上がっていくことは、市としても、保護者としてもうれしいのですけれども、学んだことが子どもたちの将来にどう生きていくのか、学んだことが自分の将来につながるということが子供たちの中にもっと意識が出てくると、もっと意欲的に学ぶことが出来るのかなと感じました。

私も数学が苦手だったので、子どもたちのアンケートで数学が好きじゃないとか、必要性を感じないというアンケートの答えが出ているということで、私も中学校ぐらいになると難しくなってきた、苦手な子どもたちが増えてきて、正直、これを将来使うのかなと思いながらやっていたこともありましたが、先日、テレビで林修先生という塾の先生が、数学は論理的に物事を考えるという点で、物事の解決能力を鍛えるものである。論理的な思考が出来る人間になっていくことで、将来、自分のやりたいことが考えられる人間になっていくから数学の考え方はすごく大事だから、とても必要な能力なのだという話をされていて、なるほどと思いました。子どもの頃に聞いたかったと思ったのですが、今の子どもたちを見ていると、これは何のためにやるのかと言う子どもがいたりするので、数学はこういうことに役立っていくよというのを、勉強をすることで自分の可能性がもっと広がっていくのだよということ、何で勉強するのかというところも、学校や保護者が伝えていけると良いのではと、資料を見て感じました。

○齋藤正美市長 ありがとうございます。

ほかにございませんか。教育長どうぞ。

○矢戸健悦教育長 いろいろ御意見を頂きありがとうございます。

私も子どもたちが学びに向かうという姿勢が少しずつ出てきて、それが結果に出ているというのは非常にうれしいと思っています。やはり学ぶというそのための土台がしっかりしていないといけないという部分があるというふうに思います。

今、問われているのは、先行きが見えない社会にこれから子どもたちが出ていく上で、課題をどうとらえて、その課題をどう克服していくか、解決していくかというその主体的な課題解決といえますか、自分でよりよくしていこうという気持ち。それは好奇心であったり、あるい

は、協調性だったり、最後まで頑張り抜くというような、そういうふうな精神的な土台が非常に重要だなというふうに思います。それが幼児教育であつたり、そして小学校の段階であつたり、そして中学校につながっていくというふうに思うと、その結果としての点数にも跳ね返っていくということで、学びの土台の部分が大事だなと思います。やはり小学校での成績と中学校の成績を比べてみると、小学校がなかなか振るわない学校は中学校でも振るわないというふうな傾向が見えていることを考えると、学びの土台をしっかりとつくっていくというのが一つの大きな解決方法にもなるかなと思います。そういう意味で、保護者にはこれまでもパンフレット等も配って、このように接してくださいということを言っているところですが、子ども自身も自分で工夫するというか、自分で時間をコントロールする指導もあわせて必要かなというふうに思っています。やはり成長の流れに沿った土台をしっかりとつくっていくというのが重要だと、今、話を聞いていて総括的には思ったところです。

○齋藤正美市長 大和委員、どうぞ。

○大和千恵委員 もう一つ、生活習慣のところ、やはり、朝食が食べられなかったり、夜ふかしだったり、ゲームの時間が多かったりというのは、家庭の環境であつたり、親世代の生活習慣が子どもに影響していると思うのです。そこの指導とかは、学校側からの働きかけは難しいなと感じるところで、御家庭の考え方もあるので、なかなか早寝早起きしましょうとか朝ごはんをしっかり食べましょうという啓発のプリントは配布されたりして学校側から呼びかけはできるけど、朝ごはんを食べさせてくださいねと強制できるところではないので。子どもは食べたいけど、そういう環境じゃなければ、そうになってしまうので、御家庭が早寝早起きじゃない家庭で、子どもだけ1人が早寝早起はなかなかないと思います。教育委員会や学校側でいろいろと考えて啓発啓蒙活動していただきますが、すごく難しいところだというのは感じています。学習のところも学校でいろいろ取り組んでいただいておりますが、家庭でそんなに勉強に重きを置いていなかったり、学習してなかったり、ずっとゲームしていたりしても特に声掛けしなかったりという御家庭もあると思うので、そこはすごく難しいところだなと感じています。

○齋藤正美市長 教育長、どうぞ。

○矢戸健悦教育長 学びの土台のところですね。家庭の働きかけというところで、これについては今までも、パンフレット等で、子どもへの声掛けの仕方とか、早寝早起き朝ごはんとか、いろんな形で伝えてはいるのですけれども、先ほどコミュニティ・スクールで、地域を挙げてやるという中で、家庭の意識も変わっていくことは期待されるし、これはこれからもやっぱり、訴え続けて、そして家庭でも、もっと子どものことを考えてくださいねというようなことを伝

え続けることが必要だと思っています。

もう一つ、その改善策としては、先ほど学校教育課長のほうからも話があったように、自分で時間をコントロールするということを子ども自身にもしっかりと育てていきたいというところで、タブレットを活用しながら、子ども自身が時間のコントロールであったり、生活習慣のコントロールであったりというのを意識して、子ども自身が頑張ってやっていこうというふうなことを、学校の側からは働きかけていきたいと思っています。その上では、タブレットの活用というのが一つのポイントになるかなと期待しているところであります。やはり両方の働きかけがこれからも必要と考えています。

○齋藤正美市長 はい、ありがとうございます。

梶谷委員、どうぞ。

○梶谷美智子委員 先ほど、教育長さんから学びに向かう力というお話がありました。学びに向かう力の土台、その基になるのは、やはり幼児教育の重要性だと思います。市では幼児教育に重点を置くと、市長さんからも以前お話がありましたが、幼児教育をどうやって充実していくか、そしてそれを小学校にどうつなげるかというところだと思います。それで学びに向かう力の土台をしっかりつけていくこと。残念ながら、小学校の低学年で、話が不登校のほうになります。不登校の出現率が年々高くなっている。小学校に入って小学校生活に適應出来ない子どもが増えてきていると思います。市では、幼児教育プランを策定し取り組んでいるわけですが、幼児教育アドバイザーの方々が市内の公立の施設を全部回りましたと、これから具体的にいろいろな取組が進められていくと思いますが、幼稚園、保育所の取組にプラスやはり小学校に入ってから低学年での不登校の出現率が高いということを受けて、やはり小学校で子どもたちを受入れたスタートカリキュラムをどうするかというところをもう少し、真剣に考えて、幼児から学童、幼稚園・保育所から小学校という、がらりと環境が変わるわけですから、そこに子どもたちが適用出来るように、学校は楽しいところだなあと、新しい友達も出来て、知らないことを教えていくわけですから、どんどん学んで、学んで楽しいという、思いを持てるように、スタートカリキュラムを各学校で、重点的に工夫していただく、大胆に考えていただくということが、必要ではないか思ってお話しさせていただきました。

○齋藤正美市長 梶谷委員の意見のとおり、楽しく学ぶ環境、それと幼児教育の基本というのは、学ぶ姿勢、学ぶ力をいかにそこでつけるかで、小学校に入ってから学力向上、学力というものの身につけ方が変わってくると思うので、本当に幼児教育、大切だと思っております。

前にもお話ししましたが、ひばり幼稚園でサントレ教育をして、学ぶ姿勢がきちっとしたと。

でも小学6年生頃になるとみんな同じくらいになるっていうのですが、でもやはり、小学校入学時の学ぶ姿勢、学ぶそういう姿、今後とも幼児教育について、いろいろな角度から研究を重ねながら、学校は楽しく学ぶ、そういう環境づくりをどう構築していくか。先ほどから土台づくり土台づくりって言っていますが、その土台というものが何であるか、その土台となる基本認識をどうするか、その辺を今後ともしっかりと議論しながら、前向きに取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

ほかにございませんか。今泉委員。

○今泉良正委員 この間、ある研修会に出て、PISAの調査結果の推移と生活総合の履修との関係で、成績が下がっていたのですが、実はあるときから上がっている。このあるときって何なのかと、高校1年生が小学校時代に生活科総合科の総合的な学習の時間を全て履修してきたというところから上がっている。これはどういうことかという、いろんなことを学んで、それを知能と知識とか技能をつないでいろんな課題、それを解決して、それを発表してという活動が学力という面でも大きな意味を持つということ。総合的な学習の時間で、自分は課題を立て整理して調べたことを発表するなど、学習活動に取り組んできたかという質問項目に対して、それが高いほど、実は学力学習状況調査の正答率が高いという結果が出ているのだそうです。ある意味、生活科総合的な学習の時間をどのように取り組ませるかということが一つ大きな成果にもなるのかなと思い話を聞いてきたのでお知らせをしたいと思います。

もう一つ、市はタブレットをLTEという形式にしています。これは、全国的にも非常に少ないのではないかと思います。ですが、非常にこれは大変素晴らしいことでないのかなと思います。例えば中学校は課外活動に行っても使えますし、これについては、ぜひ今後も続けていただきたいと思います。

○齋藤正美市長 依田委員、どうぞ。

○依田晴美委員 各学校が各御家庭に基本的な生活習慣の育成が大切ですよということを伝えるのは難しいと、PTA役員をしていたときに思いました。懇談会に皆さん、出てきてくださらない。懇談会に出席している方たちは、みんなわかっているけど、出てこない方たちをどう学校が、懇談会や家庭教育学級などいろいろな場所に引きずり出して伝えることがすごく難しいなと思います。今、タブレット端末を使用していますが、私の仕事のことなのですが、各御家庭と連絡をとるのにLINEを使用しています。そうすると、連絡がきちんと届きます。ぜひ、タブレット端末を使用して、御家庭で子どもだけではなく、親にもいろんな連絡事項を伝えるのに有効ではないかと思ひまして、お話しさせていただきました。

○齋藤正美市長 ありがとうございました。

ほかにございませんか。教育長、どうぞ。

○宍戸健悦教育長 いろいろなお話を頂いて、やはり学ぶ土台という意味で子どもたちの好奇心であったり、意欲であったり、主体性であったりっていうのを育てるというのが、その土台としてとっても大事だと思います。それがだんだん、小学校、中学校になっていろんな点数的な学力にもつながっていくというところで、その土台となる幼児教育から育てていくことは重要だというお話を頂きました。

やはり、幼稚園、保育所から小学校への接続時のカリキュラムというのがとても重要だなと思いますので、それについては改めて、各小学校のほうにもしっかりと意識、認識しながら、計画を立てて進めるようにしたいと思います。幼児教育の充実は、私立も公立もみんな結局一つの小学校に通ってくるところもありますので、やはりそういうところをつないでいかなければならないということで、幼児教育センターの役割は、これからも大きくなると思います。また、子どもたちにとっては達成感というか、褒められて、それが自信になって、そしてそれが自分のこれからの意欲になっていくと思いますので、そういうところは学校の先生方の声掛け、それから保護者からの声掛けが大事です。その辺も、意識して子どもたちに自信を持たせて、自己肯定感を高めて、そして主体的に生きられるように、こういう人間になりたいという夢や希望を持てば、惑わされることなく、しっかりと生きられる子どもに育てていくのではないかなと私は思います。そういう夢や希望をしっかりと持って、こう生きたいという、そんな子どもを幼少期の頃からずっと連続的に育てていきたいなと思っています。

それがこの学力向上の最終的に目指すところかなと思っています。

○齋藤正美市長 ありがとうございました。

(2) その他

○齋藤正美市長 そのほか、教育委員の皆さんから何かお話したいこと等ございますか。よろしいですか。

(「はい」との声あり)

○齋藤正美市長 その他、各部長、課長から何かございませんか。よろしいですか。

(発言する者なし)

○齋藤正美市長 本日は「学力向上と基本的な生活習慣の育成について」、皆さんのお考えを伺う良い機会となりました。

今後も、この総合教育会議を通じて、教育委員会との意思疎通を図っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

では、以上で協議・調整事項を終了し、事務局に戻したいと思います。ありがとうございました。

○千葉毅総務課長 それでは、以上をもちまして、令和6年度第1回石巻市総合教育会議を閉会いたします。

大変お疲れさまでございました。

午前10時58分閉会

石巻市長 齋藤 正 美

教 育 長 宍 戸 健 悦